

AC 6 餌の餌の餌は何？

実施のしかた (PDF)

1. 人・ウシ・草のカードを使って、カードの見方の説明をします。

最初に、カードの何が描いてあるかの説明を、解説用の「人」「ウシ」のカードを使って行います。右側に大きく描かれている生きものが食べる「餌になる生きもの」の一部が左側に描かれています。「人はウシを食べます」「ウシは草を食べます」と解説します。

2. 一部だけが描かれた絵をヒントに、自分が持っているカードの生きものの餌を見つけて「食物連鎖のグループ」ごとに集まります。

バラバラにしておいた「食物連鎖のカード」を参加者に1枚ずつ配ります。それぞれが自分のカードに描かれている生きものと、その生きものが食べている生きもの絵を確認します。高学年や大人のグループの場合は、自分のカードだけをみて、人にはカードを見せないように伝えます。カードの絵の確認ができたなら、自分が持っている生きものの餌を見つけて「食物連鎖のグループ」ごとに集まります。低学年のグループの場合は、絵を見せ合って同じ絵を見つけます。高学年のグループの場合は、絵を見せずに探している生物の特徴や絵に描かれていることを言葉で伝えて仲間を探し出しましょう。

3. グループごとに、高次捕食者から食物連鎖の順番に並んでみます。全グループが並んだら、「誰が誰を食べるか」を発表します。

グループごとに集まったら、カードを見せ合って、絵がつながるように順番に並びます。発表は「○は△△を食べます」と高次捕食者から順番にカードを持っている本人が伝えます。プランクトンの存在を知らない低学年のグループなどで実施する場合は、海に漂う小さな動物（動物プランクトン）や植物（植物プランクトン）がいることを説明します。

*参考資料：「ファクトシート プランクトン I」

4. 海の植物も陸上と同じように太陽の光で育つことを説明。

各グループの発表が終わったら、カードに餌が描かれていない「海藻や食物プランクトンは何も食べなくてもいいのか？」と、参加者に質問し意見を求めます。頃合いを見て「太陽のカード」を見せて、海の植物も陸上の植物と同じように太陽の光で育つことを伝えます。そして、光合成をして自分でエネルギーをつくれるのは植物であり、エネルギーをつくれぬ動物は、植物を食べたり、植物を食べた動物を食べたりして生きていることを伝えます。立派なシャチやクマやトドも、植物や小さな生物がいなくて餌が食べられず、また生物がひとつでも消えると自然界のバランスが崩れ、多くの生きものの生存が危うくなることなども、参加者と一っしょに考え、気づきを促しましょう。

5. 人間は海の生物ではないが海の生きものを食べて生きています。

最後に人間が海の生物をたくさん抱えているカードを見せて、人間は海の生きものではないけれど、海の生きものを食べて生きていること、海の食物連鎖の頂点にいて多くの海の生物に支えられてい

ることを伝えます。